

## 事後内部評価シート

調査研究課題名	次世代マルチモーダル交通情報基盤に関する調査研究 羽田空港アクセス実証実験
担当者	研究調整官 山縣延文、前研究官 押井裕也、研究官 望月隆志
当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、携帯機器の位置情報把握の仕組みを利用しマルチモーダルな交通利用者の動態（位置情報）をリアルタイムに把握・集積することにより、利用者に有益な交通情報の提供を行おうとするものであり、空港利用者の利便性向上の観点より、羽田空港アクセスを対象とした利用者の動態（位置情報）の把握状況や得られた位置情報等に対応した交通情報配信の有用性の検討を行おうとするものである。</p> <p>平成 15 年 2 月に、約 100 名のモニタに PHS 端末を貸与し、羽田空港へのアクセスにおけるモニタのリアルタイムな位置情報把握及び交通情報メール配信の実証実験を実施し、収集データの解析、アンケート結果による評価を行うことで、当初の目標は達成された。</p>
調査研究内容の妥当性	<p>空港利用者が鉄道等で高速で移動している場面が多い羽田空港アクセスという移動環境下における PHS によるリアルタイム位置捕捉状況が把握できた。また、羽田空港アクセスにおけるメールによる交通情報配信に対するモニタの意向をアンケートで調査するとともに、実際に、モニタの位置及び時間に対応した 6 種類の交通情報メールをモニタの携帯電話に配信し、その有用性や配信タイミング等をアンケート調査により考察することができた。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>実証実験の実施に際しては個別に有識者にご指導を頂くとともに、学産官の議論の場である「次世代マルチモーダル ITS 研究会」、「次世代交通フォーラム」においても説明、ご意見を頂き、的確な調査研究を進めることができた。</p>
成果と活用（予定）	<p>PRI Review 8号（2003 年春号）に概要を掲載した。また、平成 15 年 6 月の土木学会土木計画学研究発表会（春大会）（2003 年 6 月）で発表を行った。</p>